

それでは、第5章「日本語論文検索のキソ CiNii Researchを事例に」へ進んでいきます。

適切なデータベースの選択:雑誌論文 <sup>分野 or 特定分野 日本語論文 or 海外論文</sup>			
全分野	CiNii Research	Web of Science Scopus、ProQuest	ほうが一般的に、 ・その分野に関して、収録
国文学	国文学論文目録データベース		論文が多い ・より高度な検索が可能 (シソーラス等⇒補遺参照)
日本語学	日本語研究・日本語教育文献 データベース		
経済学		EconLit	これらは一例です。 <u>附属図書館Webサイトの</u> <u>データベース一覧</u> を一度チェッ クしてみてください。
教育学	教育研究論文索引	ERIC	
社会学		SocINDEX	
医学・薬学	医中誌Web、J-DreamIII	MEDLINE	
自然科学・工学	J-DreamIII		
			32

雑誌論文を探すときは、2つの視点でデータベースを選ぶのが基本です そのデータベースが、全分野を対象にしたものか、特定分野に特化したものか、 そして、日本語論文か、海外論文か という視点です。

「全分野型があれば、特定分野型はいらないのでは?」と思うかもしれませんが、 特定分野型のデータベースの方が、その分野の論文が豊富で、検索機能も充実し ていることが多いです。



今回は、CiNii Researchというデータベースを使って、日本語論文の検索方法を 解説します。

CiNii Researchは、全分野型のデータベースで、研究データ・雑誌論文・図書・ 博士論文などを含めて広く検索ができる学術情報データベースです。今回のよう に雑誌論文に限定して検索をするような場合には、スライドにあるとおり、事前 に「論文」タブを選択しておくか、または、初期設定の「すべて」で検索した後 に、「論文」で絞り込むことができます。

人文社会科学系では、特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとん どで、ほぼCiNii Research一択となります。 今日ここで紹介する方法は、具体的な操作方法というよりも、検索のコツが中心 なので、他のデータベースでも同じような考え方で使っていただけます。

ここで補足情報です。このCiNii Researchには、スライド26~28で紹介した CiNii Booksのデータが収録されています。 2025年度後半には、CiNii BooksはCiNii Researchに統合される予定ですが、統 合されるまでは、図書はCiNii Booksの方で検索していただいたほうがわかりや すいと思います。

では次から実際に検索をしていきます。



では、論文の検索をしてみましょう。みなさんもパソコンやスマートフォンなど で、実際にCiNii Researchで検索しながら学習してください。 Googleで「CiNii」や「CiNiiスペースR」と検索していただくとCiNii Research に簡単にたどりつけます。

ここでは、「選挙活動とウェブ動画の関係性」というテーマで先行研究調査を行います。 まず思いつく、2つのキーワード「選挙」と「動画」を入力して検索してみると 何件ヒットするでしょうか。

私のほうでも画面を切り替えて検索してみますね。スライドでは論文が19件 ヒットした画面を表示しています。

本当にこのテーマの論文はこんなに少ないのでしょうか?この後、いくつかのポ イントを解説しながら、検証していきます。

※検索結果の件数は2025/6/26時点のものです。



検索のポイントの一つ目は、データベースの検索方式に注意する、ということで す。

CiNii Researchは「キーワード検索方式」のシンプルなデータベースです。 入力したキーワードが、論文タイトル・雑誌名・著者名などに完全に一致してい る場合のみ検索結果に表示されます。一致しない場合はヒットしません。



さて、完全に一致しないとヒットしない、とはどういうことでしょうか。 例えば、スライドに表示している文献「時代を映した参院選:プーチン、安倍氏 銃撃、ユーチューブで投票行動に変化」は、今回探しているテーマに関係してい るように思えますが、さきほどの検索ではヒットしません。 この文献は、「選挙 スペース 動画」や「選挙 スペース YouTube」ではヒット せず、「選挙 スペース ユーチューブ」の検索でようやくヒットします。 文献のタイトルに含まれているとおり、カタカナでYouTube、と入力しないと ヒットしないのです。

そのため、次のポイントであげるような工夫が必要になってきます。



検索のポイント2つ目は、キーワードを検討することです。

CiNii Researchのようなキーワード検索方式の場合、キーワードとして何を選択 するかが重要になります。

同義語や、類義語だけでなく、キーワードからみてより広い概念の上位語、ある いは、より狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

たとえば、SNSというキーワードは、「ソーシャル・メディア」「ソーシャル・ ネットワーキング・サービス」という表現がされているかもしれません。 また下位語としては、エックスやインスタグラム、ティックトックといった、具 体的なサービス名称で表現されていることも考えられるでしょう。 そしてさらに、それぞれのサービス名称についても、言い換えや表記方法の違い を考えてみる必要があります。

次に、選挙というキーワードについても検討しましょう。自分で考えてみても、 他のキーワードが見つからないときには、参考図書などを使って探してみるとい いでしょう。



参考図書とは、百科事典や辞書などのことです。参考図書にはオンラインで使え るものもあります。

例えば「JapanKnowledge Lib」は、複数の辞書・事典をまとめて検索できる データベースです。

「JapanKnowledge Lib」は、自宅からも使うことができます。スライドの緑の 枠や矢印が自宅から使う方法になります。

阪大図書館WebサイトのTOPページ検索窓の下側、「キャンパス外から電子リ ソースを使う」からアクセスすると、認証画面を経由して、KOANのIDとパス ワードでログインすることで使えます。

また、タブをデータベースに切り替えて「すべてのタイトルを表示」をクリック すると、阪大で契約しているデータベースの一覧が表示されますが、その中で、 タイトルの隣にRという赤いアイコンがついていれば、リモートアクセスできる つまりキャンパス外からも使えるデータベースですよ、というしるしです。その 右の「Off Campus Access」をクリックすると、認証画面が表示されKOANのID とパスワードでログインして使ってください。



キーワードを得るのに便利なツールをここで一つご紹介します。科学技術振興機 構が提供している、「シソーラスmap」というツールです。 科学技術分野の専門用語が中心なのですが、スライドのように一般的な用語も 入っています。ある単語の上位・下位の概念や、関連する単語を視覚的に得るこ とができます。



検索のポイントの3つ目は、論理演算を上手に使うことです。論理演算を駆使して、集めたキーワードを有効に活用しましょう。

最もよく使う論理演算としては、AND検索とOR検索の2つです。 AND検索は入力した全てのキーワードを含むものを検索する方法です。CiNii Researchではキーワードの間にスペースを入れるとAND検索になります。 Googleなど一般的な検索のイメージと同じです。

一方、OR検索は、入力したキーワードのどれか1つを含めば良い、という検索方 法です。CiNii Researchではキーワードとキーワードの間に大文字の「OR」を 入力することで、OR検索になります。

AND検索は検索結果を減らすことになり、OR検索は検索結果を増やす検索方法 といえます。



繰り返しになりますが、CiNii Researchは入力したキーワードに完全に一致しな ければヒットしないため、必要な論文が検索結果から漏れてしまう恐れがありま す。

そこで今回は、OR検索を活用してみます。複数のキーワードをOR検索を使って 組み込むことで、より漏れが少ない形での検索ができます。

なお、データベースによって、使用できる論理演算の種類や入力方法は異なりま すので、新しいデータベースを使うときは、まずヘルプページやマニュアルを確 認してみることをお勧めします。

では、次から検索を実際に行ってみましょう。



それでは、ここまでご紹介した3つのポイントを踏まえて、実際に検索例題をやってみましょう。

先の検索で、「選挙 スペース 動画」では19件しかヒットしませんでした。AND 検索をしたことで、2つのキーワードの両方を含むものが検索にヒットしました。 検索結果を増やすために、まずは「選挙」のほうの同義語、類義語、上位・下位 語や関連語を検討します。

※検索結果の件数は2025/6/26時点のものです。



選挙の言いかえとして、「投票」という類義語を用意しました。また、下位語の 「衆院選」「参院選」、関連語の「有権者」「政治」も使ってみましょう。

自分でキーワードが思い浮かばないときは、ポイント2で紹介した参考図書や Webサイトを使うと良いでしょう。

例えば、ジャパンナレッジで「投票行動」で検索してみたところ、「有権者」 「政党」「インターネット選挙」「公職選挙法」といった関連キーワードを入手 できたのですが、

このうち、「インターネット選挙」「公職選挙法」という語は「選挙」で検索す れば必ずヒットするので、検索語には含めなくても大丈夫です。

これらを使ってOR検索を試してみます。

追加したキーワード全てを「OR」でつなげて、()でくくると、その部分をグ ループ化することができます。

こうして、選挙という概念に関するひとつのグループができました。このグルー プと、「動画」とのAND検索という形で検索するとどうなるでしょうか。 画面を切り替えますね。そうすると、結果は65件でした。19件から増えていま すよね。

次は「動画」の方のキーワードを検討してみましょう。



「動画」の関連語として、YouTubeやInstagram、TikTiokを用意しました。 日本語論文では、twitterやfacebookは、英語表記とカタカナ表記の両方が使わ れる可能性があるのでどちらも候補に入れます。

「選挙」のキーワードのグループを作ったときと同様に、全てを大文字の 「OR」でつなげ、()でくくります。 こうすることで、選挙のグループと、動画のグループが、AND検索という形で つながります。

こちらも実際に画面を切り替えてみますね。改めて検索すると、結果は96件に なりましたね。また少し増えました。

つぎでさらに検討してみます



さらに、もう少し検索結果を広げる方法はないかを考えてみます。ここでヒント になるのは検索結果に出てきている論文タイトルなどです。 検索結果を簡単に見ていくと、他にも使えそうなキーワードを得られることが多 いです。ここでは「ディープフェイク」も関連するキーワードとして活用できそ うなので使ってみます。

動画のグループのほうに「ディープフェイク」とその関連語をORで追加してス ライドのようにして検索してみると、100件を超えました。 最初の19件から比べると、かなり増やすことができました。これでもまだ少な いと思われるときは、これまで紹介した方法を使って検索式をさらに改良してみ てください。

これで検索例題は終了です。 文献データベースでの検索では、キーワードや検索式を工夫することが非常に重 要だと実感していただけたなら幸いです。

## データベース検索で心がけること

#### 予測と検証

自分の直感的な気付きを大切に。

「このキーワードでこれだけしか文献が無いのはおかしい」

→上位/下位語、類義語、同義語を探してみる(ポイント2、ポイント3)

「このキーワードでこんなにたくさん文献がヒットするのは何か変だ」

→検索結果を眺めて、自分の予期しないヒットの仕方をしていないか確認 キーワードを変更したり、AND検索で検索結果を絞り込んだりする

#### 検索式と件数などを記録しておく

記録しておくことで、検索式の調整が簡単になる しばらくしてから、先行研究調査を再度行う際にも便利

46

データベース検索でこころがけることを最後に2つ紹介します。 1つ目は、予測と検証が大事、ということです。キーワードや検索式は、ばらば らと思い付きで作成するのではなく、予測を立て、検証をしながら、改良をして いきましょう。

2つ目は、検索式と件数を記録しておくのがおすすめ、ということです。 いろいろな検索式を試していると、どの検索式で良い結果が得られたのかよく分 からなくなってきます。各検索式での件数を随時記録しておくと、検索式の調整 がスムーズです。

そして、先行研究調査は1度行って終わりではありません。研究を続けていく場合、定期的に調査が必要なタイミングがあります。検索式を記録しておけば、再調査もスムーズかと思います。

### 選別作業:検索式の検討が終わったら

検索結果一覧から自分の目で選別する

論文のタイトル、抄録(あれば)、掲載された雑誌 などをもとに選別する 無理に検索式で絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがある 100~200件程度ならば、人目でじゅうぶん選別可能

「すぐに入手できるかどうか」は選別基準に入れないこと データベース画面上で見るとPDFファイルがあるものに引っ張られがち →いったん検索結果を印刷したり、エクセルのリストに出力したりするほうが、 まんべんなく目を通しやすい

選別作業が完了して初めて入手作業へ進む!

具体的な入手方法は、本シリーズのもう1つの講習会「フルテキスト入手法」で!

47

ある程度納得できる検索式を得られたら、検索結果からの選別を自分の目で行います。

無理に検索式で件数を絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうこと があります。100~200件程度ならば、自分の目でざっとチェックできますね。 論文のタイトルや掲載された雑誌名などをもとに選別をしていきます。CiNii Researchは論文の要約にあたる抄録が含まれているものもありますので、抄録 を参考にして選別するのも良いでしょう。

選別の際には「今すぐに入手できるかどうか」ということは基準に入れないでく ださい。

データベース画面では、どうしてもPDFファイルなどですぐに入手できる文献に 惹かれがちですが、先にもお伝えしました通り、すぐに入手できないものでも重 要論文である可能性がありますので、入手の可否は考えずに選別作業を行いま しょう。

そして選別作業が完了してからはじめて、実際の入手作業を行います。この入手 作業については、2つ目の教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手 法」でご紹介します。



最後に、この教材のまとめです。



先行研究調査での論文検索から入手までの流れは概ねこのような形です。

左側のラインが「芋づる式」の調査方法、右側のラインが文献データベースによ る調査方法です。

片方の方法でしかうまく見つけることが出来ない文献もあるはずです。両方の方 法をしっかり併用して、漏れの無い先行研究調査へとつなげてゆきましょう。

そして、今日学んだことを、実際に手を動かして身に付けていただければと思い ます。

# ご相談ください

総合図書館B棟2F 参考調査カウンター

- 職員がお待ちしています
- 平日9:00-17:00(事前予約不要)
- オンライン・メールでの相談も受け付けます

### 大阪大学附属図書館 レファレンスデスク

https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/reference\_desk/

• メール・フォーム・オンラインでの相談受付中

 ・ 附属図書館4館のレファレンス・スタッフが 随時ご相談・参考調査に応じています

実際にやってみると、それぞれのデータベースの使い方や、適切なデータベースの選択、検索式やキーワードの検討などで迷ったり困ったりすることがあるかと思います。

レファレンス・デスク

50

その際は、ぜひ総合図書館参考調査カウンターへご相談ください。

平日の9時から17時の間、私たち職員がお待ちしています。また、オンラインや メールでの相談も受け付けています。どうぞお気軽にご利用ください。

また、大阪大学附属図書館の4館のレファレンス・スタッフが随時ご相談や調査 を受け付けています。メール・フォーム・オンラインの方法で可能ですので、詳 しくは、画面のQRコードから図書館Webページをご覧ください。

## 参考文献リスト

明石芳彦(2018)『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房.

秋山哲雄, 田中大喜, 野口華世編(2021)『日本中世史入門:論文を書こう』 増補改訂新版. 勉誠出版.

味岡美豊子(2009)『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房.

白井利明, 高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方』第2版. ミネルヴァ 書房.

藤田節子(2007)『キーワード検索がわかる』筑摩書房.

村上紀夫(2019)『歴史学で卒業論文を書くために』創元社.

矢田竣太郎(2025)「動向レビュー:生成AIを用いた文献調査ツール」『カレントアウェアネス』 362号、p. 6-10.